

研究テーマ:基礎学力を定着させるための音読指導の工夫

所属 高知市立朝倉中学校

氏名 寺尾順子

RG JH9

【 アクションリサーチ I 】**1 研究の背景**

本校の特色は、基礎学力を定着させれば問題行動が減るであろうという仮説のもとに、ユニークな教育活動が展開されている。二期制の導入。(前期 4 月～10 月 8 日・後期 10 月 12 日～3 月) 平日放課後の加力学習(加力専任講師と大学生、教員)。夏休みの加力学習。1 年次における英語・数学の少人数制、理科と家庭科の T・T(週 1)。

こういった状況で 1 年生 5 学級あるうちの 4 学級を担当することになった。英語科における今年度の少人数制を次のような形で行うことにした。

5 月末の確認テストまでは英語の入門期として、授業規律の確立とアルファベット・音声に慣れることを目標に、一斉で T・T 形式で行う。その後クラスを機械的に(出席番号順と男女比)半分に分ける。次に、これまでの経験から中学校において基礎・基本を定着させるためには「家庭学習の定着」をどう仕組んでいくかが大きな課題であると痛感してきた。音読ができない生徒にとって家庭学習は苦痛であろうし、書いて覚えることなどできようはずもない。そこで今年度は赴任 1 年目でもあり英語学習のスタートでもある 1 年生なので、無理をせずできることを地道にやろうと考え、次のようなリサーチ・クエスチョンを設定した。

2 リサーチ・クエスチョン

基礎学力を定着させるための音読指導をどのようにしていくか。

3 予備調査

- (1) 観察結果 たいへん大きな元気な声で授業に臨む。しかし、精神的に幼い生徒が多いクラスでは、こちらの気を惹くためにわざと大声を上げたり注意をしあったり、それが口げんかに発展することもあり授業の雰囲気は壊れる。
- (2) テスト アルファベットの大文字・小文字の読みのテストを 4 月末から 5 月にかけて実施した。まず驚いたのは小文字が読めない生徒が意外に多かったことである。これまでの経験からこの時期にこういう事態に遭遇したことはなかったので、かなり学力的に厳しいものがあるのではと感じた。

4 仮説の設定

音読がスラスラできれば、書いて覚えることが容易になるだろう。

音読がスラスラできれば、聴く・話す活動に対する抵抗感が少なくなるだろう。

5 計画の実践

毎時間の始めに既習事項の音読を行う。(慣れてくると教師のあとを速いテンポで 2 回繰り返さ

せる。指し読みをさせ本当に眼で追っているかチェックを入れる、など。) 夏休みの加力指導。

6 実践の結果

毎時間の音読タイムは定着した。ただし文字は読めてないが暗唱している生徒もいた。

英語が苦手でもまじめに取り組めた生徒は十分に読めた。一方、家庭での努力を嫌う傾向にある生徒や、授業中まじめに文字を追わない生徒は途中で詰まった。夏休みの加力で学級担任にほめてもらった生徒が意欲的に学習に取り組み始めた。

7 結果の検証 音読テストではほとんどの生徒が課題を音読することができた。

【 アクションリサーチⅡ 】

1 研究の背景

後期に入り、学習意欲があまり見られず、注意をしても聞かない生徒が出始めた。そこで授業に全員が参加できる方法を考えなくてはならなくなった。

2 リサーチ・クエスチョン

授業に参加しない生徒をどのように巻き込んで音読させていくか。

3 仮説の設定

学習集団を形成することにより、意欲が低い生徒を学習に参加させることができるだろう。

4 計画の実践

男女のペア学習を基本とし、仲間と関わり協力することの大切さを話したうえで、生徒に座席を決めさせ、音読練習とその発表や課題学習プリントなど基本の練習をペアで行わせ、協力度も含めて評価していった。また、授業に参加しない勝手な行動を取る生徒や音読に熱心でない生徒の意識を高めるために、前時の本文を「一人1文ずつ3セット」読ませる方法をとってみた。なお、途中、間(10秒)があくと読み始めの人に戻るというルールで、緊張感も与えた。

5 実践の結果

一人1文ずつ本文を読ませていく方法を取ることににより、それまでは授業に参加していなかった生徒が自分の順番を意識し始めて、その活動をきっかけに1時間の授業の中で参加する時間が増えてきた。またお互いの音読に耳を傾けていないと途中で詰まるので、仲間の音読にも耳を傾け、文字を目で追うことができ始めた。また隣の生徒が、音読の苦手な生徒に教える場面も多くなった。

6 結果の検証 授業の雰囲気がいへん和やかなものになった。(観察)

【 成果と課題 】

授業の雰囲気がたいへん和やかになって課題に対しても意欲的に取り組めてはいる。しかし本当に力が付いてきているかの検証はまだ不十分である。また家庭学習の定着についても一層の工夫をしていかねばならない。